
カァデイスからの手紙（107）

2006年5月26日

「ヘレスの馬祭り」の巻

Fiesta de Caballo フィエスタ・デ・カバールヨです。カバールヨとは馬、そしてフィエスタは勿論お祭り、フェスティバルです。スコッチの普及品にホワイト・ホースといるのがありますね、あれはカバールヨ・ブランコ(しろうま)と呼ばれます。

詳しいことは知りませんが、このお祭り、本を正せば馬市だったんでしょう。今では馬の売買はそっちのけのお祭り騒ぎになっているようです。それともお祭り会場のドコカ私達が知らない所で、チャンと本来の「馬市」も立っていたのかな。

このテのお祭り騒ぎはあまり気の進まないところですが、一度はどんなものか見届けておかなくてはと思って最終日の前日、先々週の土曜日に出かけました。場所はカァデイスからの近郊電車の終点 **Jerez de la Frontera** ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ、通称ヘレス。最寄り駅エスタディオから約45分で行けます。

ヘレスの駅を出てみると、一緒に降りた乗客の大多数も祭りの会場を目指らしい。私達もその人達と前後して歩き始めました。駅から歩いてすぐの所にバス停がありそこにも明らかに「馬祭りへ行きます」という人達がバスを待っていました。

何故それが判るかって？ 判るんです。馬祭りに行く女性の1~2割は華やかなフラメンコ衣装 **traje(または vestido) de flamenco** で着飾っているんです。電車の中や駅にもそういう衣装の女性がたくさんいましたから、地元ヘレスの人だけでなくカァデイスを初め近隣の町からもこの衣装を着て集まってくるんですね。

バス停の表示を見ると、どうやら会場行きの臨時バスがあるらしい。会場までは徒歩30分余りと見当をつけていましたが、その日はとても暑い日で、しかも私達がヘレスに着いたのは暑い盛りの午後4時ごろ、歩いたらバテそうだバスにしようかということになり、暫くそこで待っていました。

例によって、バスはなかなか来ません。バス停では既に20人ほどの人が待っていましたが、みんないい加減ウンザリした様子でしたから、かなり長いこと来てないんですね。10分ほど待ってみましたが、間隔もわからんバスを待つのはアホらしい、ヤッパリ歩こう、といつもの通りです。それでも待っている人達の根気のいいこと。

そこはロトンダ(ロータリー)の一角でしたが、会場へ向かって歩き始めたらロータリーの反対側にも別のバス停があり、そこでも大勢のスペイン・オバサンがバスを待っていました。あの衣装も混じっていましたがやはりお祭りに行く人たちですね。

私達はその脇を通り過ぎようとする、その中の一人のオバサンがペラペラッと話しかけてきました。どうやらアッチの停留所を通るバスとこっちのバスとどっちがいいかしら？ テナことだったと思います。でもトテモ聞き取りにくいアンダルシア弁で

しかし、ここは私達にとってもヨソの町、そんなこと知る由もありません。すみません、私達は日本人だからバスのことはよく分かりません。すると周りのオバサン達はどっと笑ってましたね。バカねあんた、ハポネスのセニョールにそんなこと聞いたって、とでも言っていたんでしょ。その通り、ナンデ俺に聞くんだヨ。

私達同様バスを当てにしない人たちが会場目指して三々五々歩いてゆきます。私達はついでに闘牛場を見てゆこうと人の流れから外れて、少し遠回りの道を日陰を拾って歩きました。ヘレスの闘牛は時々テレビなどでも放映しているので、さぞ立派なものだろうと思っていましたが、案に相違してつまらんものでした。その近くでこんな光景に出会いました。姉が妹の髪飾りを直してやっている、らしい。



この衣装は3月頃からデパートの特設売場に並びます。色や柄やデザインは様々ですが、共通項は裾のひだ飾りと腰から上がピッタリ・フィットということでしょう。こんなにキッチリしたものならよほどボディー・ラインに自信がなけりゃ、と思うでしょう？ とんでもありません、よくもこんなサイズが・・・というような堂々のビヤ樽オバサンも平気平気。三段バラも五段バラもなんのその。ヨシャーいいのにネ。

ずっと前に紹介した「セビージャの春祭り」もついこの間終わったばかり。とにかく春は各地でお祭りの連続です。こんなにお祭り騒ぎばかりでいろんな業務が滞るんじゃないか？なんて心配はご無用。アンダルシアでも特にこの辺はずっとコレでやってきたんだから、滞ろうが滞るまいが関係なし、それが例年のペースなんですね。

会場に近づくにしがって段々ヒトの流れも密になってきます。スペインの人たちばかりでなく、私達のような外国人観光客の姿も目に付きます。日本人らしい人にも何回か行き違いました。外国人の中ではやはりイギリス人らしい人がダントツ。

お祭り会場に近づくと、大通りも一般交通は全て遮断、これ以後、馬車か乗馬以外は乗り入れ不可なんです。この会場内の馬車や馬は果たして近郊のどのくらいの範囲から集まって来るんでしょうか。これから先はもう馬・馬・馬。



交通遮断の柵の中は馬の天下、文字通り闊歩、カッポ。上は広い会場内の辻馬車。料金さえ払えば誰でも呼び止めて乗れます。御者はきりっと小粋なセニユリータ。下はお祭り会場の言わばメイン・ストリート。馬祭りに相応しく、ひづめに優しい無舗装です。ド派手に飾り立てた馬車が次から次へ通り過ぎます。とにかく馬・馬・馬。





大雑把に言って縦横500×700メートル位の広い会場内に、果たして何頭の馬と何人の人が集まっているのか、とにかくモウうんざりするほどの人がワイワイがやがや、呑んだり食ったり、踊ったりオシャベリしたり。下の写真、馬上の人もみんな手に手にヘレスのグラスを持っています。左端の人が右手に持っているのはオツマミの皿。心なしか馬は皆、アホラシ、ワシャシラン、みたいな顔に見えます。





スタイル抜群のセニョリータも大勢いますが、ドスコイおばさんも負けていません。両者の比率はほぼ互角。スペイン女性は10代はほぼ丸、20代前半も半数は丸、でも30代はヤバイゾとなり、40位になると、アツというほどの変貌を遂げてしまうんですね。最近男女共若年層の肥満が急増で、社会問題化しつつあるようです。

どの写真にもドコカに立ち飲みの人が必要です。なぜかという、みんな座る場所がないんです。会場内に飲食店は沢山ありますがどれも超満員。土曜日のこの時間（午後5時台）はマダマダ序の口で、本当に込み合うのは深夜から明け方なのだそうです。考えただけでもツっ立ったままではもちません。クレイジーですねー。

正面の白壁の家、こういうのをカセータ(caseta=仮小屋)と言って、まあ要するに飲食店兼踊り場なんです。会場を田の字・十文字に仕切る馬車道沿いに、軒並み立ち並んでいます。200軒以上が出店しているのだそうです。踊りのホコリもうもうもなんのその、平気で呑み食いしています。この白壁の家、いかにも民家を臨時にバルに改装した、といった風ですが、実はこれベニヤ板を打ち付けただけの安普請、言ってみれば舞台の大道具のようなもの。雨が降らない時期だからこそ出来る芸当です。

私達はこんな雑踏を見に行ったのではなく、期間中、必ずやっているはずの馬術競技がお目当てだったんですが、残念ながらその日、昼の部の競技は終わった後でした。

夜の部を見ようとすると終電車に間に合わなくなるのでそれも諦めました。翌日曜日の最終日には競技予定も盛り沢山のようでしたが、最終日の混雑を考えるとモウそれだけでウンザリでマタ出直す気にもなれませんでした。

ずっと前、まだベナルマデナに住んでいた頃、ヘレスへのエクスカージョンで王立馬

術学校のホース・ショーを見た話をしたと思いますが憶えておいでですか？
ヘレスという町はヘレス（シェリー酒）で名を売ったことは勿論ですが、馬術競技の盛んなことでも知られています。中でも王立馬術学校のショーは素晴らしいの一語に尽きます。それを頂点とする広い裾野の馬術競技を見たいと思ったのですがねー。

*



馬車道にはこのような電飾が20メートル間隔ぐらいにビッシリと付いていました。カァデイスの電飾とは比較にならない緻密さです。馬車道は先程言ったように田の字の十文字で、延べ約千メートルはあります、点灯したら見事でしょうね。是非見たいと思いましたが、暗くなるのが22時では仕方ありません。終電に間に合わない。



女性の晴れ着がフラメンコ衣装なら、男性はこれ、この乗馬服にツバ広帽子。これはソムブレロ・コルドベス(sombrero cordobés=コルドバの帽子)というアンダルシア独特のツバ広フェルト帽です。こうして恋人を鞍の後ろに乗せて馬車道を颯爽と行くのがヘレスの色男の見せ所なんですね。まっ精々お気張り。落っこつすなヨ。

「またまた天候異変」の巻

私達がヘレスへ行った日を含め先々週後半から先週前半まで、アンダルシア内陸部を中心に熱波と言ってもいいくらいの暑さに見舞われました。先週明けには、コルドバで早くも43度を記録し、セヴィージャなど内陸の町は軒並み40度を越えたようでした。

私達がヘレスの馬祭り会場の近くで見た電光板ではこんな風で、ヒュー、暑い筈だ、とその時は思いましたが、その後はもっと暑い日が続いたんですね。多分ヘレスでも次の日には40度以上になっていたのでしょうか。



しかし、カアディスではまだ天気予報の画面で30度という表示は見えていませんし、居間の温度計では25度にも達していません。勿論、直射日光は強くて火傷する位ですけど、湿気がないから日陰では涼しい。カアディスはいいところですヨ。

去年の早魃を考えると今年の夏はどうなるのかとヒトゴトながら気になります。去年の今頃もテレビで貯水量が少ないと言うニュースを見ましたが、この時期に40度を越す記録的な暑さなら、本格的な夏になったらどうなるんだろうとも思います。

まあ、カアディスでジッとしている分にはなんとも言うこともありません。どんな日差し強い日でも、前は全て開け放ち、後ろも少しスカしておけば、陽が高くなるほどにシー・ブリーズ viento del mar が吹き抜けてうちの中はヒエヒエです。

テレビでは、早くも40度を越した今年の各地の温度を歴史的と報じています。去年私達は丁度この頃に日本から帰ってきましたが、前の浜の様子を見ても去年のこの時期とは全く違うようです。市の海浜施設の準備も殆ど一ヶ月前倒しの感じです。

下の写真は先週の日曜 21 日の午後ですが浜はこんな風。 去年はボードウォークを張ったりシャワーや足洗い場の設置をしたのは 6 月に入ってからと記憶していますが 今年 5 月に入ると早々に準備を始めてもうとっくに完了です。

クルス・ロハ(Cruz Roja=赤十字)のレスキュー・ボートや救急車の待機、見張り台の監視などもうとっくに始まっています。 こんなに早く夏が来てしまったら、早魃の被害もそれだけ大きくなるんじゃないでしょうか。 ヤッパリ異常が平常になったか。

*



私達はポツポツ帰国準備に取り掛かるつもりです。 いっぺんに何もかも片付けるのはホネですから、それこそポツポツとボール箱一つ片付けたら その都度シー・メールで一つずつ送るという具合に・・・。 とりあえずは当面いらぬ冬物などから。

ところで、荷造りを始めるに当たってハタと困ったことに、日本では楽に手に入る段ボール箱がナカナカ手に入らないことに気が付きました。 例の「タコセン」の箱を何十個も貰ったように、日本のスーパーはどこでもレジ横に不要なボール箱を積んであって客が自由に使えるようになってますが、ここではそんなスーパーは皆無です。

ドコカの店に頼んでおけば空き箱を分けてくれるでしょうが、あれこれと大きさや丈夫さを指定するのははばかられます。 電話帳を調べて近くにある引越し屋を 2~3 当たってみたんですが、いずれも家族だけでやっているような小さな規模で、使っているボール箱もそこいらの商店からかき集めたものなんですね。

マドリー(ド)には日本の運送会社の支店があり、そこなら日本と同じように自社のボール箱を持っていて箱だけの注文でも宅配してくれることは分かりました。しかし、

箱の代金の2倍以上もの配達量を払うのはシャクに障ります。

近隣の町の大手の引越し会社はたいていが自動車専用道の沿線や工業団地風のところにあり、訪ねてゆくのは難しいのです。こういうとき気軽に電話で問い合わせして注文出来ればいいんですが、とにかく電話は苦手ときています。

色々探した挙句電車で二駅の隣町サン・フェルナンドに電車の駅からも歩ける範囲内にかなり大手らしい引越し会社を見つけました。早速行ってみると、サイズも大中小と三種類あり、引越しを頼まなくてもボール箱だけ配達してもらえることが分かりました。配達量も無料サービス。ヤレヤレです。

こうして、段ボール箱も手に入り、郵便局にも問い合わせに行き、上記の最大サイズのボール箱でも重量20キロまでなら受け付けることも確認しました。いよいよ帰国準備のカマエは万端整ったんですが、この期に及んで、またもやここを去りたくない気持ちが段々強くなってきました。困ったもんです。
